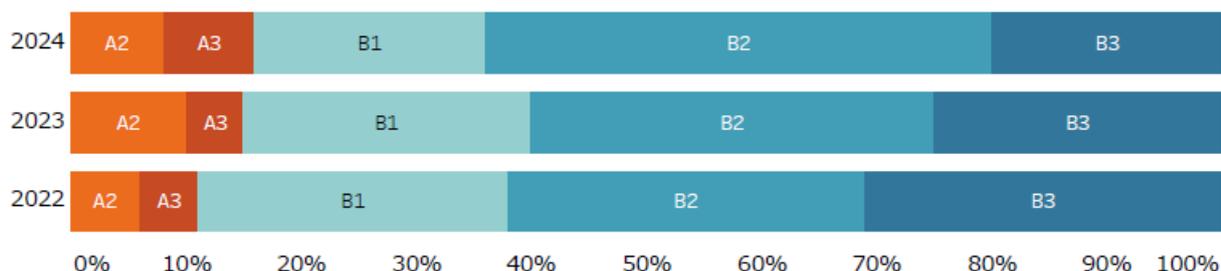


## 2024年 桜蔭 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。大問4題構成は例年通りでしたが、昨年と同じく問題用紙が3枚でした。問題文の情報量が多く、条件、作業手順や問題の状況などを正確に読み取る必要があります。計算問題だけでなく、問題中の途中式でも手間がかかることが多いため、1回の計算で正しい答えを求め切る力は必須です。また、場合分けして正確に調べる力、変化する状況を図に置き換えてとらえる力など、多岐に渡る思考力が求められます。



大問1は、例年通り計算、一行題でした。ここ数年、計算問題は1問でしたが、今年は2問ありました。どちらも非常に手間がかかりますが、確実に処理をして得点したいです。(2)は、示されている条件の通りに黒丸、白丸を並べる問題でした。あせらずに調べられたかで差がついたと思います。条件が多くて取り組みづらいですが、ていねいに場合分けして調べることで答えにたどり着けます。(2)②では、順列の計算を利用することができます。(3)は、「折り紙」の問題でした。広げた図形が「正十二角形」とわかって、②でつまづいた受験生が多かったと思います。「30度の二等辺三角形」であったため、「正三角形の半分」に目を向けてしまいがちですが、ここでは底辺2.7cm、高さが5cmの三角形となる点がポイントでした。この点に気づけたかどうかで差がついたと思います。大問2は、比を利用した文章問題でした。全体の中では比較的取り組みやすい問題だと思います。(1)~(3)は基本的な問題です。計算ミスすることなく、確実に得点しておきたいです。(4)は、青色、黄色に着目して絵の具の量を調べます。この大問2は、できればすべて得点しておきたいです。

大問3は、正方形内部を移動する正三角形の軌跡を捉える問題でした。正三角形の動きをていねいに作図しますが、「正三角形が通過した部分の面積を立式する」点でとまどった受験生がいたかもしれません。正しく作図できていれば、正三角形、正方形、30度の扇形に着目することができます。(2)は、途中で正三角形の折り返しが入るため、作図しづらいです。手間がかかりそうなら、後回しにして大問4に手をつける方がよいかもしれません。大問4は、桜蔭で頻出の水そうグラフの問題でした。前半で時間を使い果たしてしまい、ここまでたどり着けなかった受験生もいたかもしれません。大きな水そうの中におもりをつけた水そうを沈め、さらに時間差をつけ注水します。グラフも2つあり、状況が把握しづらいと思いますが、水そうを2次元の図に置き換え、変化する様子を捉えていきます。

どの問題も非常に重たく、試験時間50分はあっという間に過ぎてしまいます。ちょっとした計算ミスが大きな差を生んでしまうため、計算力は必須となります。あくまでも予想ですが、大問3(2)、大問4ク~シ②を落としたとしても、およそ7割には達することができると考えられます。